



## 「気仙沼圏域食育研修会」の開催

(気仙沼保健福祉事務所)

1月20日(火) 気仙沼地方振興事務所、南三陸教育事務所と共催で「気仙沼圏域食育研修会～食生活を見直し健康になろう～」を実施しました。研修会には、圏域の保育所関係者、生産者等75人の参加がありました。

仙台白百合女子大学佐々木裕子先生を講師に、「適正体重の維持に向けて」と題してご講演いただきました。

講演の中で、宮城県民は男性の3人に1人、女性の4人に1人が肥満であるなど、健康課題に併せて、肥満により老化が早まること、主食・主菜・副菜を揃えた食事の大切さ、よく噛んで・よく眠ることの大切さなど適正体重を維持するためのポイントについて説明がありました。

その後、気仙沼圏域で活発に食育活動に取り組んでいる気仙沼市立馬籠幼稚園、気仙沼市立階上小学校、南三陸農業協同組合の方から、事例を発表していただきました。

年間を通して実践している食育活動の紹介や自然環境や暮らしと産業、伝統・文化等、地域の食材や料理を見つめなおし、守り伝えていく「スローフード学習」の紹介など、今後それぞれの分野で食育を進めていくうえでの参考になるお話でした。



(研修会の様子)

## 「第2回米づくり推進気仙沼地方本部会議」開催

(気仙沼地方振興事務所農林振興部)

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部主催による「第2回米づくり推進気仙沼地方本部会議」が開催(12月18日)されました。

本会議では、平成24年産米の作柄について、県東部の作況指数は106の「良」であること、一等米比率は県が84.6%(10月末現在)に対して管内は52.1%(12月6日現在)であること、落等理由は8月中旬以降の高温による障害(心白・腹白粒)が最も多く、次いで斑点米カメムシ類による被害粒であったこと等が報告され、関係機関の情報共有が成されました。

また、平成25年産米の生産に向け、各市町での農地復旧活動の状況の報告、気象状況に応じた水稻の生育管理について意見交換があり、関係機関の意識統一が図られました。

より高品質・高収量の米生産に向けて、平成25年度も引き続き、気仙沼・南三陸地域の米づくりを関係機関一丸となって取り組んでいきます。



(本会議の様子)

## 「唐桑地区料理体験メニュー開発講座」

(気仙沼地方振興事務所農林振興部)

気仙沼市唐桑町において、1月22日に、県の「みやぎグリーン・ツーリズムアドバイザー派遣事業」を活用した『唐桑地区料理体験メニュー開発講座』が開催されました。これは、唐桑地区を教育旅行等で訪れる小・中学生を対象とした地域食材を使った「食」に関する体験メニューの開発に向けた取り組みです。

講師には、仙台市で「ぷらいべーとさろん具楽 (GURAKU)」を主宰するフード・コーディネーターの早坂具美子先生をお迎えし、最初に、「大唐桑のおこわ」「鱈出汁の魚ぱっと」「大根と干し柿の酢のもの」などの地元食材を使った郷土料理の作り方を見ていただきました。



(調理の様子)

引き続き行われた早坂先生との意見交換会では、早坂先生より「魚を下ろす作業を体験の中に入れての方がいい」「小中学生でも簡単に作れる“うどん”を組み込んではどうか」など、「食」の体験メニューへ仕上げるための助言をいただきました。



(意見交換会の様子)

## 地域材を使った児童福祉施設が完成

(気仙沼地方振興事務所農林振興部)

気仙沼市古町の高台に地域の子供たちが利用できる施設「子育て支援センター」が完成し、1月19日(土)に落成式が行われました。

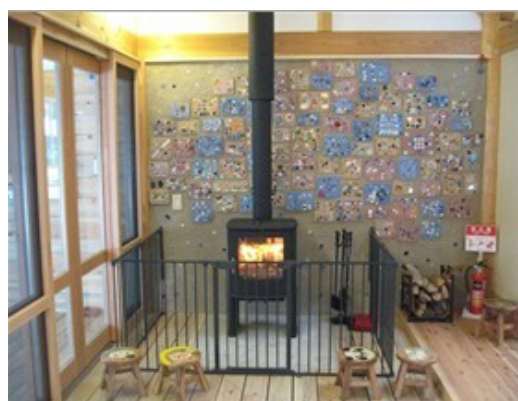
この施設は、日本ユニセフ協会が被災地支援プロジェクトの一環として、地域の子供と親と一緒に遊んだり本を読んだりできる施設として建設したものです。



(「子育て支援センター」外観)

施設は、延床面積240㎡の木造平屋建てで、木材をふんだんに使っているため安らぎとぬくもりが感じられ、気仙沼木材協会が提供した地域材が構造材の一部に使われています。

施設の玄関左手には薪ストーブが設置され、後ろの壁には子供たちの手作りの飾りがはめ込まれています。



(玄関の薪ストーブ)

部屋は、大小二つの部屋が天窓の付いた明るい廊下を挟んで配置されており、床がすべて無垢の杉材となっているため、子供たちが素足でも遊べる空間となっています。



(天窓の付いた廊下)

施設の運営・管理を行う葦の芽幼稚園では、気仙沼市の未来を担う子供たちに自分の思いを思う存分膨らませる時間と場所を提供し、健やかな成長に寄与できる施設として活用することになっています。



(「子育て支援センター」内部)

### 「元気が出る研修会」を開催

(本吉農業改良普及センター)

平成 25 年 1 月 31 日に、気仙沼市本吉町はまなすホールで「元気が出る研修会」を開催しました。

本研修会は、地域農業復興の一助にと、普及センター及び管内関係機関・団体が連携して開催した行事です。好天に恵まれ、被災した農業者を中心に 180 名ほどが参加しました。

研修会は、広田半島営農組合臼井組合長（陸前高田市）と有限会社ウィルビー志村代表取締役（花巻市）の 2 人を講師に迎えて行いました。

臼井組合長は、「広田半島営農組合の歩み」と題し、ほ場整備事業の採択から集落営農組織の結成、被災後から営農再開に向けた一連の取り組みについて話されました。



(臼井組合長による事例紹介)

志村氏は、「地域の絆で”むら”と農地を守る」をテーマに、震災からの復旧のために考えるべきこと、地域コミュニティを守るための集落営農、地域の担い手づくり、地域の特産品づくりと情報発信などについて熱弁をふるいました。「地域活性化伝道師」として 6 次産業化や人材育成、地域づくり等で実績があり、参加者は”わかりやすい”話に聞き入りながら、人と人のつながりや集落営農の大切さを確認されたようでした。



(志村氏による講演)

### さけ稚魚の放流が行なわれています

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部)

管内のさけふ化場は東日本大震災により破損し、また、海洋環境の変化等の影響により 2 年連続して来遊尾数が減少しており厳しい状況ではありますが、国の補助事業を活用して施設の復旧を行ない、震災前と比較して施設や設備が十分ではない中でも飼育管理に頑張って取り組んでいます。



(補助事業により復旧した小泉ふ化場)

このような状況の中、南三陸町の水尻ふ化場では、管内で一足早くさけ稚魚の放流が行なわれています。これまでに1月25日と2月6日の2回放流が行なわれました。今年は水尻ふ化場の飼育水温が高く稚魚の成長が早いため、放流が例年より早くなりました。2月6日は雪がちらつく中、平均サイズ5.2センチメートル、平均体重1.1グラムほどに育った元気な稚魚が放流されました。

今後も引き続き、水尻ふ化場、小泉ふ化場、大川ふ化場で放流が行なわれる予定です。4年後には親魚になって大きく育って戻ってくるのが期待されています。



(雪が降るなか元気に泳ぐ水尻ふ化場の稚魚)

## 「高校生のためのものづくり企業見学会」の開催

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

平成25年1月24日(木)に宮城県とハローワーク気仙沼の共催により「高校生のためのものづくり企業見学会」が開催されました。

この見学会は県内の優れた製造業への理解を深め、ものづくり産業への就職を志す高校生を対象に行われたものです。

今回は気仙沼向洋高校の機械技術科と気仙沼高校の定時制の2年生が参加し、気仙沼市内のものづくりの現場を見学しました。

見学会では高校生は2班に分かれ、第1班では科学研究機器メーカーの東京理器械株式会社と業務用のフィッシュカッターを取り扱う株式会社フィッシュカッターツネザワ商事様、第2班では車両用エンジン部品等を取り扱う株式会社おやま製作所様と産業用精密機械の部品加工を行っている株式会社シマ精工様を見学しました。

参加した高校生はものづくりの現場を実際に見て工場で働く職員の生の声を聞く経験となり、県内の優れた製造業への理解を深めました。



(株式会社おやま製作所工場長から説明を受ける高校生)



(株式会社シマ精工代表取締役から説明を受ける高校生)

## 「語り部研修会」を開催しました (気仙沼地方振興事務所地方振興部)

平成24年12月26日(水)に、岩手県陸前高田市内において気仙沼市・南三陸町で語り部として活動している方や観光関係者を対象とした「語り部研修会」を開催しました。

貸切バスに乗車し、陸前高田観光ガイド部会に所属するガイドの方に、貸切バスに乗車してもらい、陸前高田市内の被災状況についての説明を受けた後、陸前高田市役所仮庁舎内に移動し、意見交換を行いました。



(現地視察の様子)

陸前高田観光ガイド部会の方からは、陸前高田市の震災当時の被災の状況や震災後の復興に向けての活動についての貴重なお話を伺いました。意見交換では、被災地におけるガイドの方法や注意点、心がけなどについて積極的な意見交換がされました。



(意見交換会の様子)

気仙沼市と南三陸町では、震災を語り継ぐ語り部ガイドが活動していますが、今回の研修を通して得た情報がこれからの活動に役立つことが期待されます。

気仙沼地方振興事務所では、これからも気仙沼市・南三陸町の語り部ガイドの情報を発信していきます。

## 「県際地域おもてなし研修会」を開催しました (気仙沼地方振興事務所地方振興部)

平成25年2月27日(水)に、気仙沼市本吉町のはまなす海洋館を会場に、岩手・宮城県地域(岩手県一関市、平泉町、大船渡市、陸前高田市、住田町、宮城県栗原市、登米市、気仙沼市、南三陸町)の観光関係者の方を対象とした「県際地域おもてなし研修会」を開催しました。



(研修会の様子)

研修会では、ホテル松島大観荘の磯田女将と気仙沼観光コンベンション協会の宝田副会長の2名による講演が行われました。

始めに、ホテル松島大観荘の磯田女将から「新しい地域の宝を発見しよう」の演題のもと、東日本大震災以後のホテル松島大観荘のお客様のおもてなしや日本三景松島の観光復興に向けての取り組みについて講演をいただきました。

次に、気仙沼観光コンベンション協会の宝田副会長から「『震災復興語り部ガイド』気仙沼地区の取り組み」の演題のもと、気仙沼市における「震災復興語り部ガイド」の設立から、その後のお客様の受け入れや、気仙沼市を訪れる外国人観光客の状況について講演をいただきました。

今回の研修会により、平成25年4月から6月まで開催される仙台・宮城デスティネーションキャンペーンに向けた機運が醸成されるとともに、観光関係者がより良いおもてなしの心構えを学ぶことができました。